

このたびの東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

関西経済レポート

関西の各種指標をみると、震災による影響は薄れているが、円高や海外経済減速の影響が懸念される。

生産は持ち直しつつあるものの、足下は一部弱い動きになっている。消費は、持ち直しつつあるものの、マインドの低下が懸念される。雇用は、緩やかに改善している。

先行きについては、電力供給への不安、海外経済の動向や円高の影響等が懸念材料である。

2011年10月20日

関経連経済調査部

※本レポート中の「近畿」「関西」の範囲は滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県。

ただし鉱工業生産、大口電力需要、大型小売店販売額、コンビニエンスストア販売額については、福井県を含む2府5県。

～目次～

政府・日銀の景況判断	1
日銀短観	2
電力不足による関西経済への影響	3
生産	4
輸出入	6
個人消費	8
住宅投資	11
株価・為替	12
倒産	13
雇用	14

～政府・日銀の景況判断～

	近畿	近畿地区金融経済概況 日銀大阪支店	関東甲信越	地域経済報告 日銀	全国	金融経済月報 日銀	全国	月例経済報告 内閣府
2010年10月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、緩やかに回復している。	∪	緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きが弱まっている。また、地理的および業種間のばらつきも残存している	∪	わが国の景気は、緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きが弱まっている。	∪	景気は、このところ足踏み状態となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。
2010年11月	∪	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるものの、このところ足踏み感も窺われている。			∪	わが国の景気は、緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられる。	⇒	景気は、このところ足踏み状態となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。
2010年12月	∪	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるものの、このところ足踏み状態となっている。			⇒	わが国の景気は、緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられる。	⇒	景気は、このところ足踏み状態となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。
2011年1月	⇒	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるものの、このところ足踏み状態となっている。	∪	緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられる。また、地理的および業種間のばらつきも残存している	⇒	わが国の景気は、緩やかに回復しつつあるものの、改善の動きに一服感がみられる。	↗	景気は、足踏み状態にあるが、一部に持ち直しに向けた動きがみられる。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2011年2月	↗	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつある。			↗	わが国の景気は、改善テンポの鈍化した状態から徐々に脱しつつある。	↗	景気は、持ち直しに向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2011年3月	⇒	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつある。			⇒	わが国の景気は、改善テンポの鈍化した状態から脱しつつある。	∪	景気は、持ち直しに転じているが、自律性は弱く、東北地方太平洋沖地震の影響が懸念される。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2011年4月	∪	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつあったが、足もとでは東日本大震災の影響が生産面などにみられはじめている。	∪	震災の影響に伴う生産活動の大幅な低下等から厳しい状況にある	∪	わが国の経済をみると、震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力の強い状態にある。	∪	景気は、持ち直していたが、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2011年5月	⇒	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつあったが、このところ東日本大震災の影響が生産面などにみられはじめている。			⇒	わが国の経済をみると、震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力の強い状態にある。	⇒	景気は、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2011年6月	⇒	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつあったが、このところ東日本大震災の影響が生産面などにみられている。			↗	わが国の経済をみると、震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力が続いているが、持ち直しの動きもみられている。	↗	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ上向きの動きがみられる。
2011年7月	⇒	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるが、東日本大震災の影響が生産面などにみられている。	↗	厳しい状況が続いているが、供給面の制約が和らぎ、家計や企業のマインドも改善しつつあるも、地域間、業種間のばらつきを伴いつつも、持ち直しの動きがみられている	↗	わが国の経済をみると、震災による供給面の制約が和らぐ中で、持ち直している。	⇒	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ上向きの動きがみられる。
2011年8月	↗	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、震災の影響も薄れてきている。			⇒	わが国の経済をみると、震災による供給面の制約が和らぐ中で、着実に持ち直してきている。	↗	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、持ち直している。
2011年9月	⇒	近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、震災の影響も薄れてきている。			⇒	わが国の経済をみると、震災による供給面の制約がほぼ解消する中で、着実に持ち直してきている。	⇒	景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、持ち直している

○日本銀行大阪支店 9月の景況判断（「近畿地域金融経済概況」）

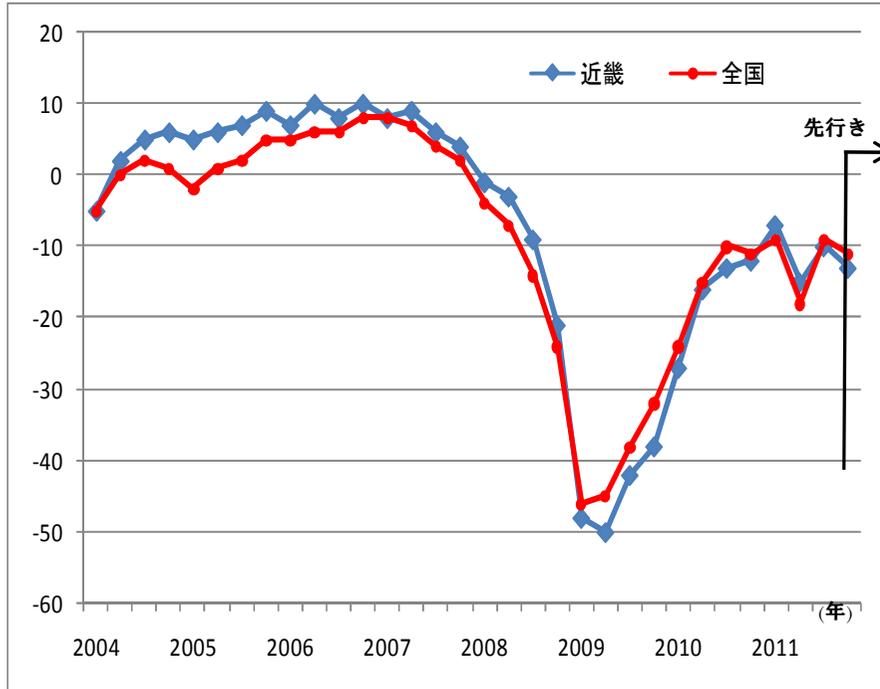
「**近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、震災の影響も薄れてきている。**」とした。（前月から継続）

- ・輸出・生産・・・サプライチェーンの障害など震災の影響が薄れつつあり、増加に復してきている。
- ・設備投資・・・企業収益の改善が続く中で、緩やかに持ち直している。
- ・個人消費・・・全体として緩やかに持ち直している。

先行きは、電力の供給制約や海外経済減速の影響が懸念される。加えて、為替相場や、国際商品市況の動向も注視が必要。

～日銀短観～

業況判断DI（「良い」-「悪い」、2011年9月結果まで）



○近畿の業況判断DI（2011年9月結果）

- ・9月の日銀短観の近畿の業況判断DIは、全産業▲10と、前回6月調査の▲15から+5ポイント、2四半期ぶりに改善した。前回調査時の予測（▲18）を上回ったが、全国に比べれば小幅な回復にとどまっており、全国を下回った。先行き12月の見通しは▲13と、全国よりも先行きへの見方が若干慎重になっている。円高・海外経済の動向への懸念が強く、復興需要の見込みが小さいこと、全国で下期に牽引役となる自動車産業の割合が低いこと、などが影響していると考えられる。
- ・全国の業況判断DIは、全産業▲9と、6月調査の▲18から+9ポイント、2四半期ぶりに改善。先行きの見通しは▲11と悪化の見込み。

規模・業種別内訳（2011年9月結果まで）

近畿				
	2011年6月	9月 ()内は前回 調査時予測	先行き 12月	見通し
全産業	▲15	▲10 (▲18)	▲13	↘
大企業	▲4	▲1 (▲3)	▲1	⇒
中小企業	▲25	▲17 (▲26)	▲23	↘
製造業	▲11	▲7 (▲13)	▲10	↘
大企業	▲4	▲3 (▲3)	▲3	⇒
中小企業	▲22	▲13 (▲20)	▲18	↘
非製造業	▲19	▲12 (▲21)	▲17	↘
大企業	▲2	3 (▲4)	2	↘
中小企業	▲28	▲20 (▲31)	▲27	↘

全国				
	2011年6月	9月 ()内は前回 調査時予測	先行き 12月	見通し
全産業	▲18	▲9 (▲15)	▲11	↘
大企業	▲8	1 (0)	3	↗
中小企業	▲24	▲16 (▲24)	▲18	↘
製造業	▲15	▲5 (▲8)	▲5	⇒
大企業	▲9	2 (2)	4	↗
中小企業	▲21	▲11 (▲15)	▲12	↘
非製造業	▲20	▲12 (▲20)	▲14	↘
大企業	▲5	1 (▲2)	1	⇒
中小企業	▲26	▲19 (▲29)	▲22	↘

○近畿の規模別・業種別業況判断DI（2011年9月結果）

- ・電気機械の先行きが▲15と足下の▲1から大幅に悪化する見込みとなっており、海外の需要減少への懸念が強いと思われる。
- ・宿泊・飲食サービスが、足下▲28と前回調査の▲61から大幅に回復。自粛による影響は落ち着いたとみられる。
- ・建設業は足下▲27と前回調査の▲37からは2ケタの回復となったが、先行きは▲35と悪化しており、復興需要を見込む企業は少ないとみられる。

～原子力発電所の停止に伴う関西経済への影響について～

関経連試算結果(GDP・GRP、雇用への影響)

	関西 (2012年夏)	
	(2011年冬)	
実質GRP	▲2.1% (▲1.7兆円)	▲1.0% (▲8500億円)
雇用喪失	▲5.4万人	▲2.6万人
失業率	0.51% (ポイント悪化)	0.25% (ポイント悪化)

国家戦略室「エネルギー・環境会議(7/29)」提示資料より関経連試算。雇用喪失は年ベース。夏は7～9月、冬は12月～2月を想定。

(*2)政府の電力需給見通し

	全国	関西
2012年夏	▲9.2%	▲19.3%
2011年冬	▲0.7%	▲8.4%

国家戦略室「エネルギー・環境会議(7/29)」提示資料より

○原子力発電所が全て停止した場合、**2012年夏の関西の実質GRPは2.1%押し下げられ、失業率は約0.5ポイントの悪化となる。**
 関西は原子力による発電比率が高いため、全国より影響が大きい。

○**関西の失業率は4.8%(*1) → 5.3%となり、雇用への影響は極めて甚大。**

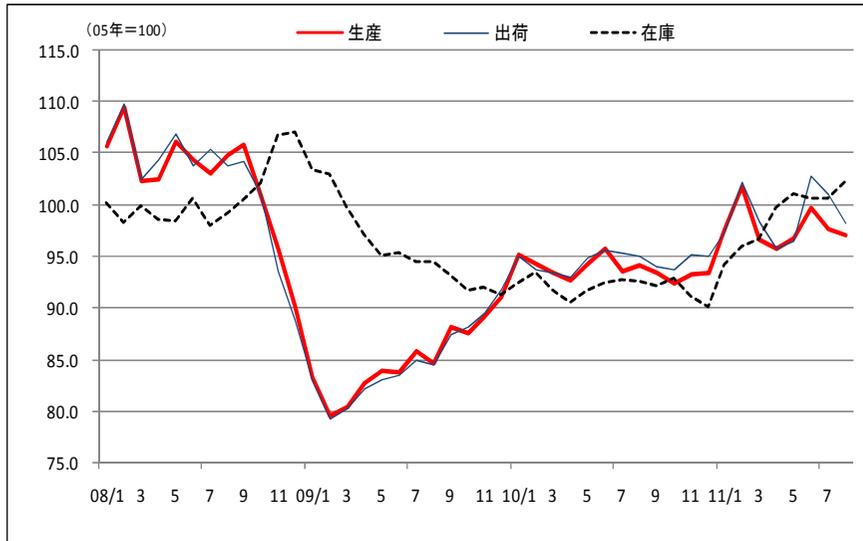
(*1) 総務省発表の数値(7月分)より福井を含む関西2府5県の数値を試算。

試算方法

- ・過去の電力消費量とGDPに相関関係があることから弾性値を算出し、政府試算の電力不足率(*2)から7-9月の3か月間の実質GDP・GRPへの影響を試算。**関西の来夏の実質GRPは2.1%(1.7兆円)押し下げられる。**
- ・自家発電の自家消費分については生産減少に影響しないと想定し、資源エネルギー庁電力調査統計「業種別大口電力需要実績(平成22年度)」内の産業別自家発電比率分を除外している。
- ・雇用喪失についても、過去の実績から就業者関数を推定すると、GRP1%減少に対して就業者数が0.254%減少することになる。**関西の来夏の失業率は0.5ポイント悪化し、雇用への影響は極めて甚大である。**

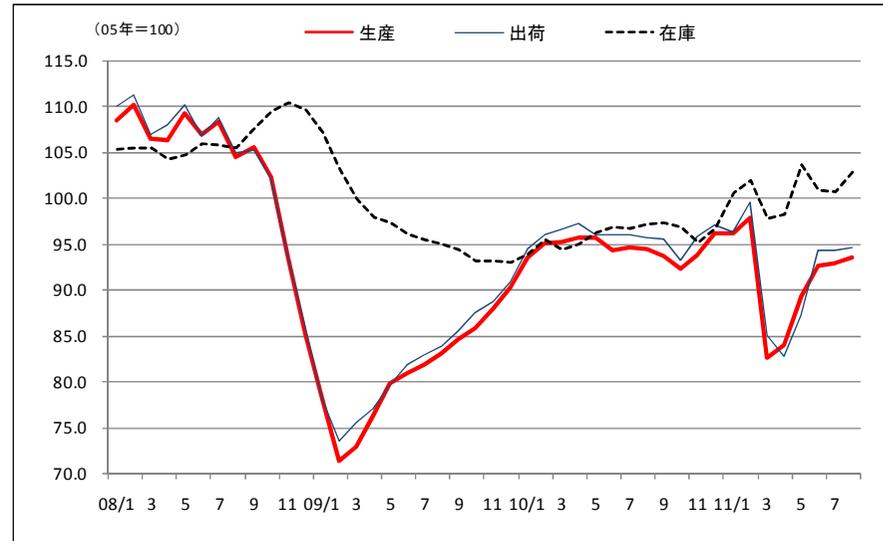
～生産～

鉱工業指数の推移（近畿 2011年8月速報まで）



(出所) 近畿経済産業局

鉱工業指数の推移（全国 2011年8月確報まで）



(出所) 経済産業省

業種別鉱工業
生産指数
(前月比、%)

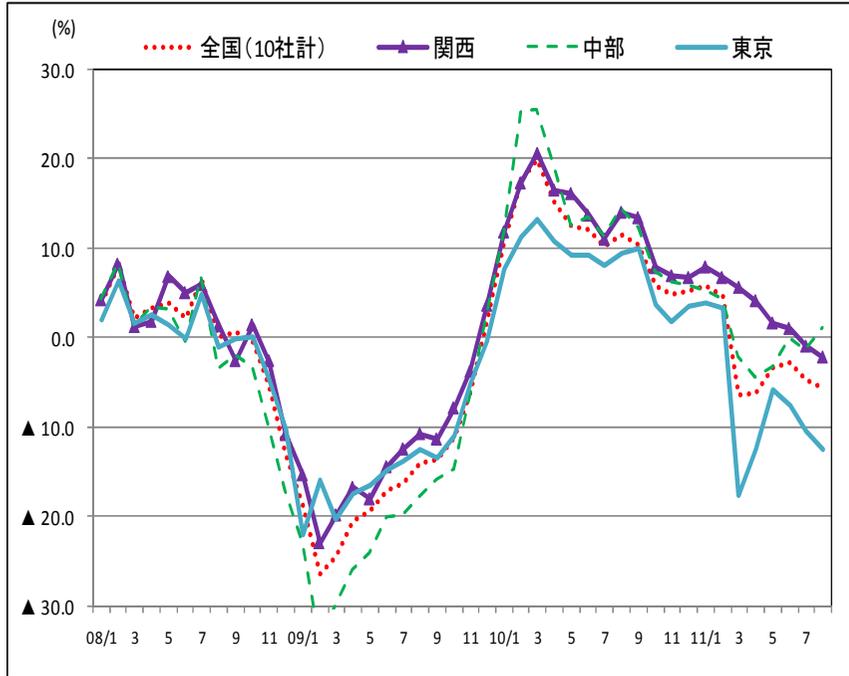
*網掛は、生産が
前月比プラスの業種

	全体	鉄鋼	金属製品	一般機械	電気機械	情報通信 機械	電子部品 デバイス	輸送機械	化学	食料品 たばこ
近畿6月	3.1	3.2	4.5	6.6	0.0	8.1	29.0	8.9	2.0	▲5.4
近畿7月	▲2.0	1.7	▲0.7	▲3.3	1.1	1.1	▲14.0	▲1.1	0.5	▲3.2
近畿8月	▲0.6	4.0	2.2	▲7.4	2.2	▲5.2	1.3	2.9	▲2.8	3.1
全国7月	0.4	▲0.7	▲2.4	0.5	▲0.2	15.8	▲3.4	5.5	▲6.3	2.1
全国8月	0.6	2.4	0.2	1.0	0.8	▲10.6	1.2	6.7	0.6	▲3.3

- ・ 近畿の8月（速報）の鉱工業生産指数は、97.1。前月比▲0.6%と2カ月連続の低下。持ち直しの動きにあるものの、一部に弱い動き。
出荷は前月比▲2.7%の98.3と、2カ月連続の低下。在庫は、前月比+1.6%の102.2と、3カ月ぶりの上昇。
業種別にみると、一般機械工業、化学工業(除.医薬品)、情報通信機械工業などが低下に寄与。
品目別にみると、ガスタービン、ポリプロピレン、PDPモジュール等の生産が低下。
- ・ 全国の8月（確報）の鉱工業生産指数は、93.6。前月比+0.6%と5カ月連続で上昇。東日本大震災の影響からはほぼ回復した。
出荷は、前月比+0.2%の94.6と4カ月連続で上昇。在庫は、前月比+2.1%の102.8と3カ月ぶりの上昇。
業種別では、輸送機械工業、鉄鋼業、電子部品・デバイス工業等の業種が生産増加に寄与。
製造工業生産予測調査によると、9月は前月比▲2.5%の低下、10月は同3.8%の上昇を予測している。

～生産～

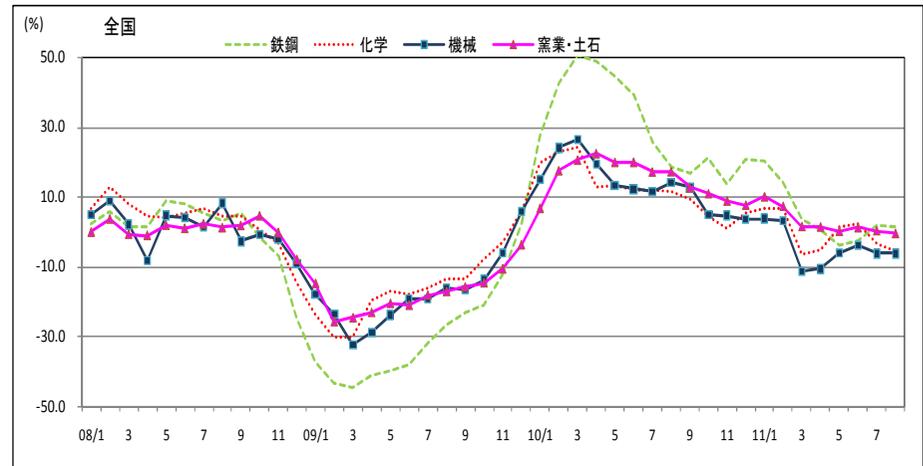
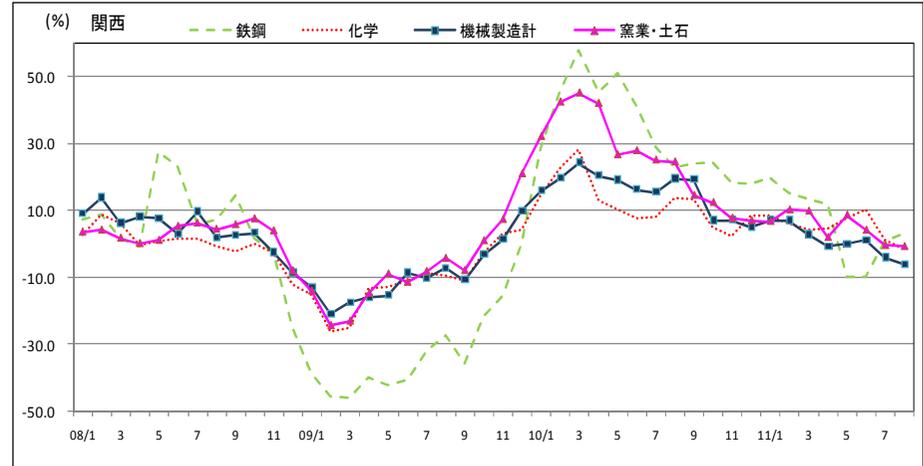
産業用大口電力実績（対前年伸び率・2011年8月まで）



・8月の関西の大口電力実績は、節電要請等により、前年同月比 ▲0.9%と、20カ月ぶりに前年実績を下回った。
 全国は同▲5.7%と、5カ月連続のマイナスとなった。

・業種別(関西)では、化学、鉄鋼、非鉄金属以外の7業種で前年比マイナスとなった。窯業・土石は液晶パネル関連が堅調であったが、22カ月ぶりのマイナスとなった。

大口電力業種別実績（対前年伸び率 2011年8月まで）

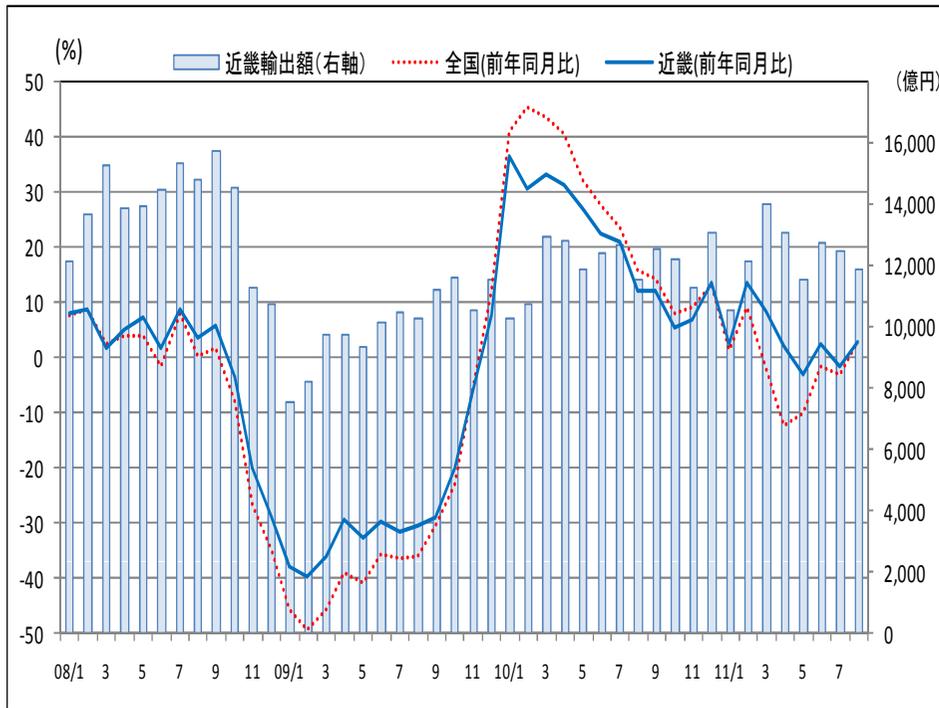


大口電力 業種別実績（関西 前年同月比伸び率）

関西	食料品	繊維	パルプ・紙	化学	石油・石炭	ゴム製品	窯業・土石	鉄鋼	非鉄金属	機械製造計
6月	4.7	9.8	▲4.3	10.3	▲0.2	▲0.3	4.2	▲10.0	34.3	1.2
7月	▲1.5	▲5.0	▲9.4	1.5	▲2.8	▲1.4	▲0.4	0.7	28.2	▲4.0
8月	▲2.9	▲6.8	▲22.8	▲1.2	▲5.4	▲4.0	▲0.7	3.1	29.8	▲6.0

～輸出～

輸出金額・前年同月比増減率推移 (2011年8月まで)

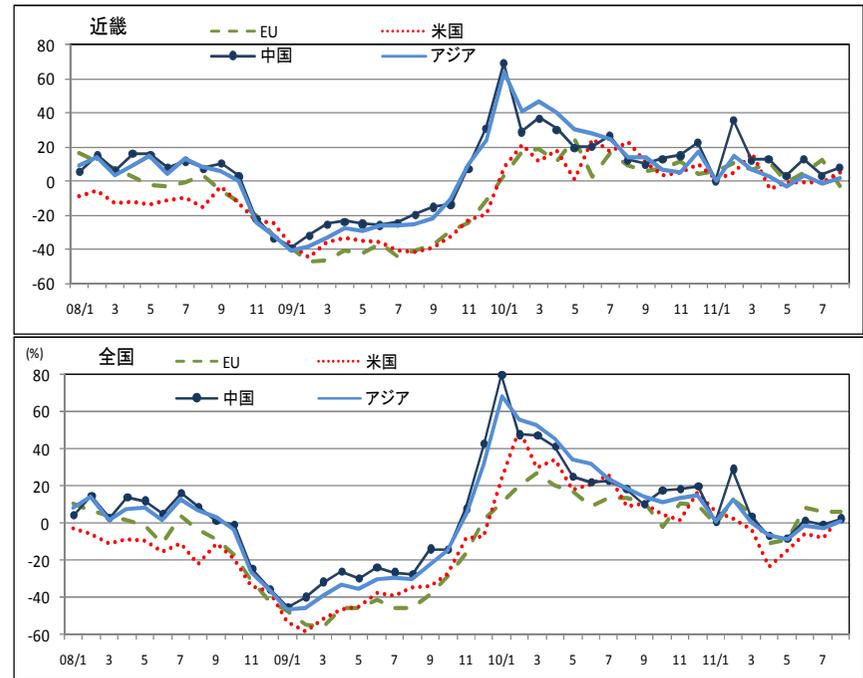


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

○近畿の月次の輸出動向 (2011年8月まで)

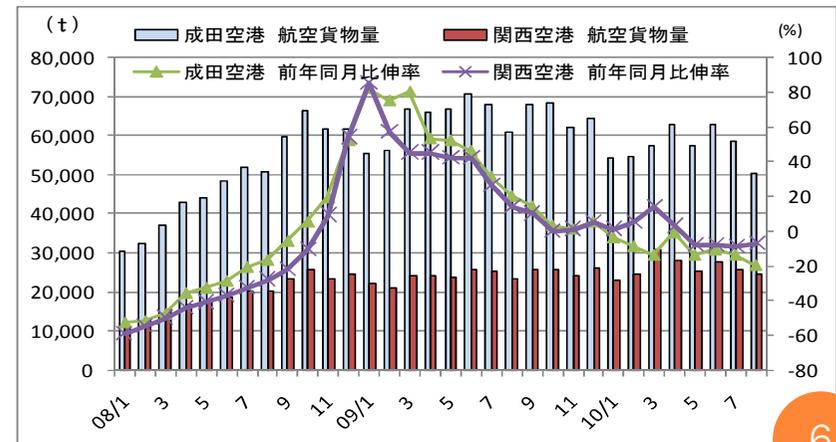
- ・ 8月の近畿の輸出額は1兆1,846億円、前年同月比+2.6%。
2か月ぶりの前年同月比プラス。
- ・ 地域別では、アジア向けが前年同月比+1.8%と2か月ぶりのプラス。
うち中国向けは同+8.0%と22か月連続のプラス。
EU向けは同▲2.7%と3か月ぶりのマイナス、米国向けは同+5.1%と5か月ぶりのプラス。
- ・ 中国向け液晶パネル、香港向け鉱物性燃料等が増加。
半導体等電子部品が前年同月比▲12.9%と、シンガポール等で減少。
- ・ 全国の8月の輸出額は5兆3,575億円、前年同月比+2.8%と、震災で落ち込んだ3月以降6か月ぶりにプラスとなった。

地域別輸出金額・前年同月比推移



出所：大阪税関 資料

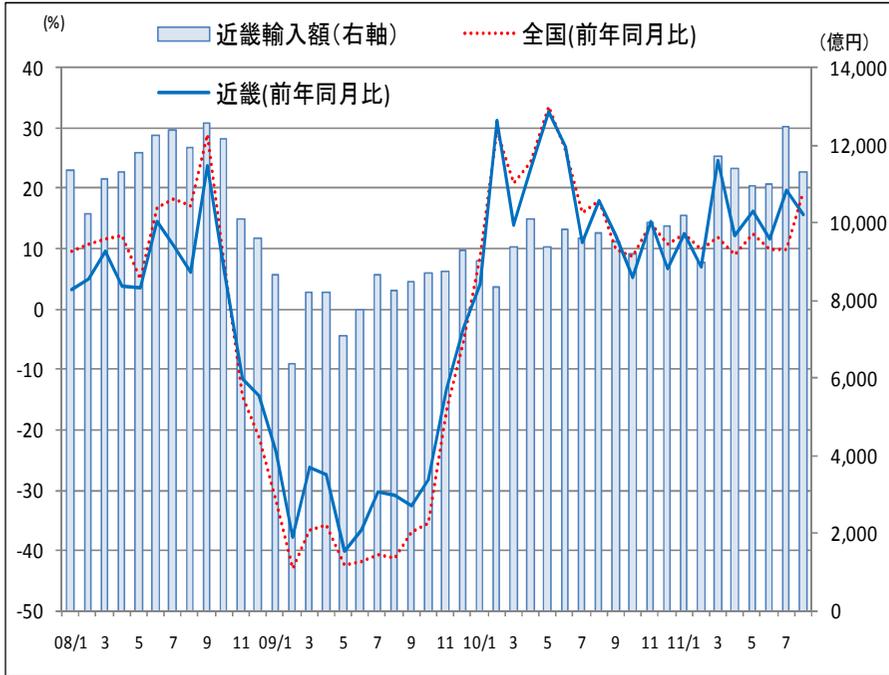
関西空港・成田空港貨物取扱量(輸出)



出所：関西国際空港(株)、成田国際空港(株)

～輸入～

輸入金額・前年同月比増減率推移 (2011年8月まで)

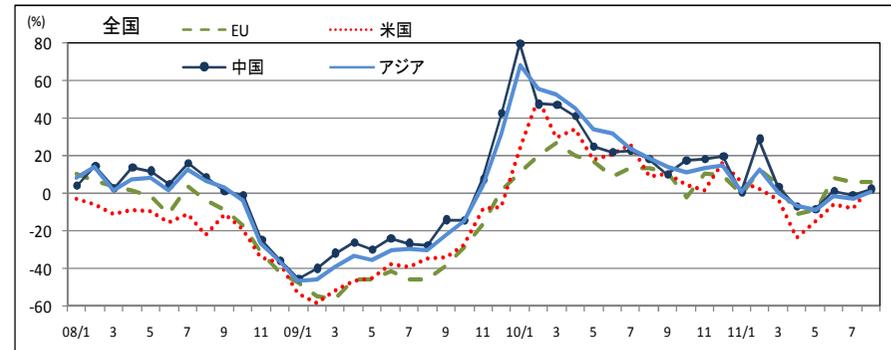
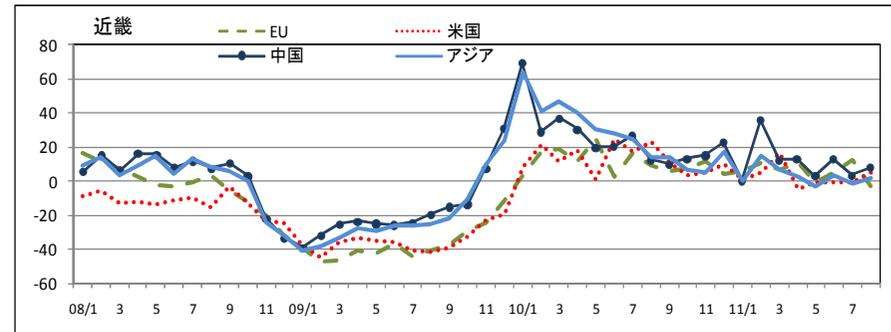


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

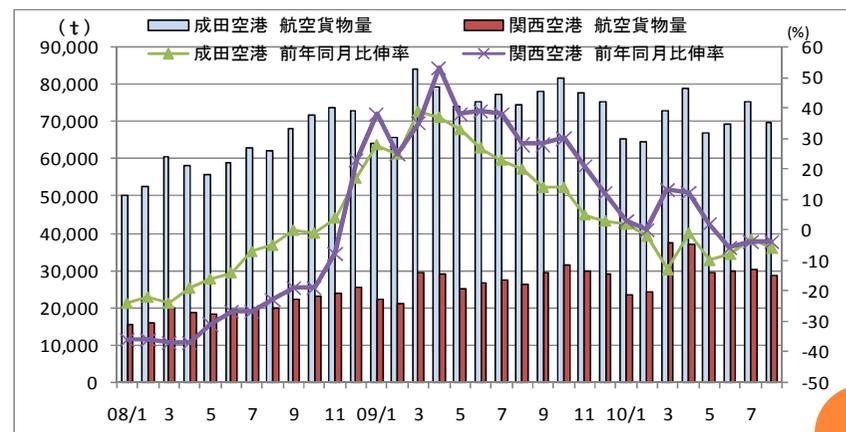
○近畿の月次の輸入動向 (2011年8月まで)

- ・ 8月の近畿の輸入額は1兆1,307億円、前年同月比+15.8%と、20カ月連続のプラス。
- ・ 地域別では、アジア向けが前年同月比+17.0%と20カ月連続のプラス。アジアのうち中国向けが同+17.7%。米国向けが同+8.4%と2カ月ぶりのプラス。EU向けは同+8.8%と6カ月連続のプラス。
- ・ 引き続き原油や天然ガスが増加しているほか、中国産の衣類や鉄鋼等が増加。
- ・ 全国の輸入額は6兆1,328億円、前年同月比+19.2%と20カ月連続のプラス。

地域別輸入金額・増減前年同月比推移



関西空港・成田空港貨物取扱量(輸入)



出所：関西国際空港(株)、成田国際空港(株)

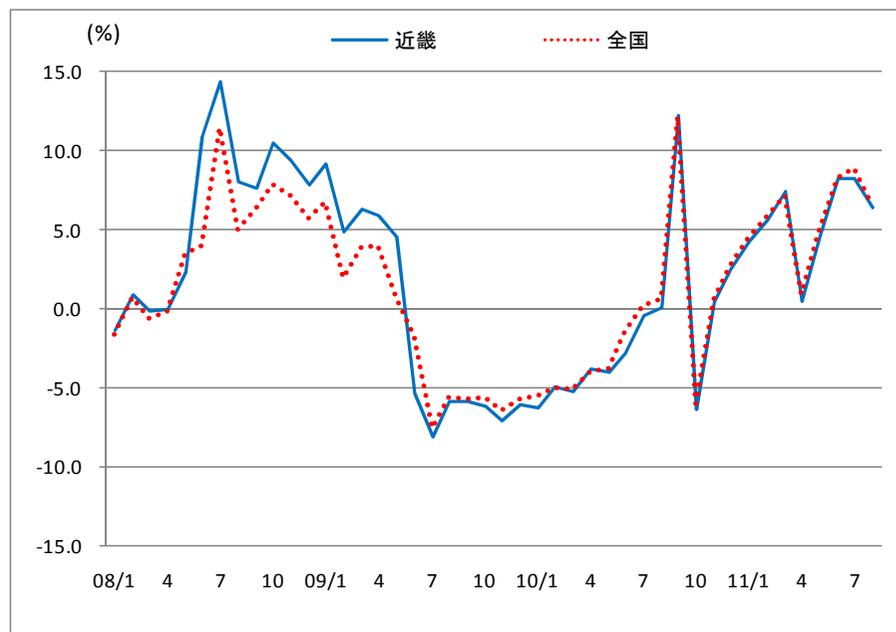
～個人消費～

大型小売店販売額（前年同月比・2011年8月まで）



(出所) 近畿経済産業局

コンビニエンスストア販売額（前年同月比・2011年8月まで）



(出所) 近畿経済産業局

- ・近畿の8月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(既存店ベース)は、前年同月比▲3.3%。前月に40カ月ぶりのプラスとなったが再びマイナスとなった。先行きも株安や円高による消費マインドの冷え込みが懸念される。
- ・スーパーは同▲4.3%と33カ月連続のマイナス。
- ・百貨店は同▲1.2%と、4カ月ぶりのマイナス。新店舗を含む全店ベースでは+0.9%と、5カ月連続のプラス。

主なコメント（近畿）

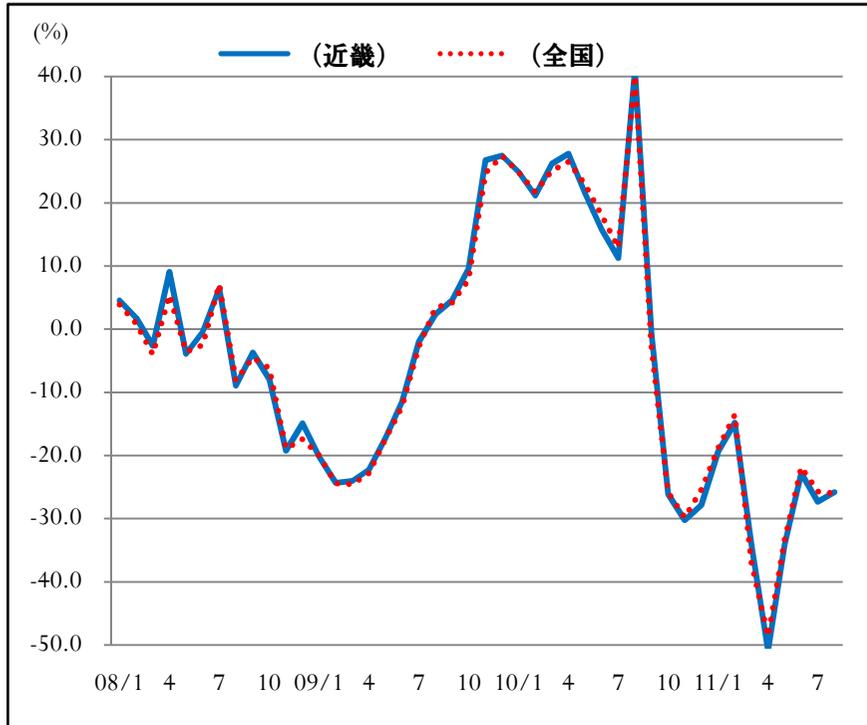
(出所) 近畿経済産業局

- ・時計・宝飾品など高額品が活発に動いた。(百貨店)
- ・地デジ特需の終了や、昨年に比べて気温が低かったことによる季節品の不振で、大変厳しい状況になった。(スーパー)

- ・近畿の8月のコンビニエンスストア販売額(既存店ベース)は、前年同月比+6.4%と10カ月連続のプラス。前月(+8.4%)からプラス幅は縮小。
- ・全国は同+6.6%と、10カ月連続のプラス。プラス幅は前月(8.9%)から縮小。
- ・来店客数は前年同月比ほぼ横ばい、平均客単価は9カ月連続のプラス。中旬～下旬にかけて高温の日がほとんどなく、アイスクリームやソフトドリンクは低調であった。(※全国)
- ※(社)日本フランチャイズチェーン協会調べ

～個人消費～

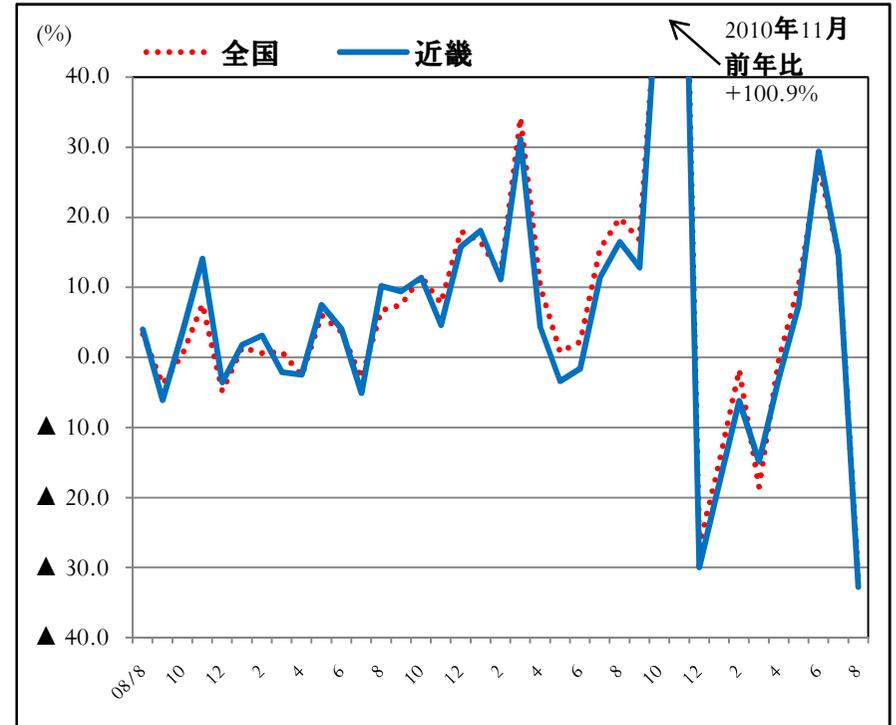
新車登録台数（前年同月比・2011年8月まで）



(出所) 近畿経済産業局

- ・ 近畿の8月の新車登録台数は、前年同月比▲25.8%、12カ月連続のマイナス。震災による影響は底を打ったものの、引き続き2ケタのマイナス。
- ・ 車種別では、普通車▲20.4%、小型車▲37.7%、軽四車▲14.0%。特に普通車で前月からマイナス幅が縮小。
(前月：普通車▲32.4%、小型車▲29.8%、軽四車▲16.2%)
- ・ 全国の8月の新車登録台数は、同▲26.0%。マイナス幅は前月からほぼ横ばい。

家電販売額（前年同月比・2011年8月まで）

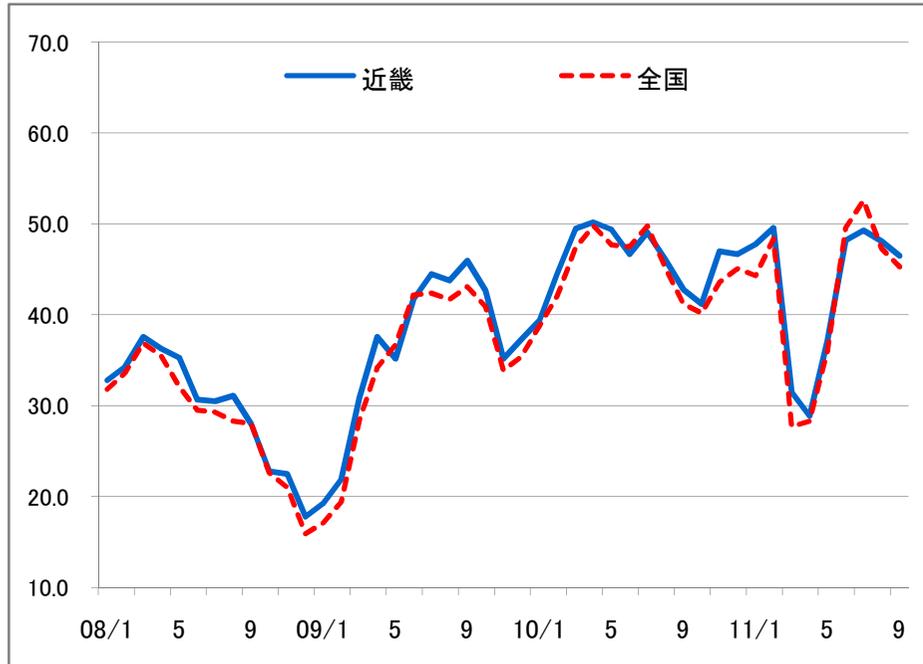


(出所) 近畿経済産業局

- ・ 近畿の8月の家電販売額は、前年同月比▲32.8%と、4カ月ぶりの前年同月比マイナス。全国は同▲31.5%。
- ・ 品目別では、地上デジタル放送移行による駆け込み需要の反動から、カラーテレビが前年同月比▲59.8%、DVDが同▲22.4%と、大幅なマイナスとなっている。
冬場の電力不足への不安から、石油暖房機が前年同月比23倍となっている（全国は同+6.6%）。

～個人消費～

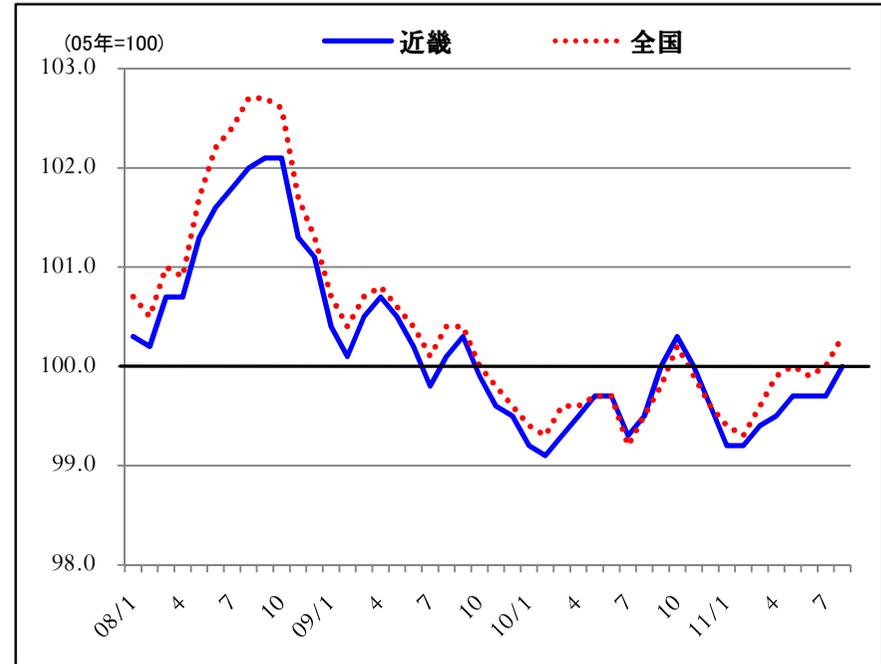
景気ウォッチャー調査(現状判断DI・方向性 2011年9月まで)



(出所) 内閣府

- ・ 9月の近畿の現状判断DIは前月比▲1.6ポイントの46.5と、2カ月連続の低下。
- ・ 台風等の影響で季節商材の動きが鈍かったこと、テレビ等の駆け込み需要の反動減がみられたこと、円高進行による企業の経営環境悪化等の懸念が強まっていること等から低下した。
- ・ 全国の現状判断DIは前月比▲2.0ポイントの45.3と、2カ月連続で低下した。
- ・ 近畿の9月の先行き判断DIは前月比+1.1ポイントの47.5と、2カ月ぶりに上昇。円高や株安による不安材料はあるが、東日本大震災による落ち込みからの回復、ウォームビズ・節電関連消費の高まり等から上昇。
全国の先行き判断DIは同▲0.7ポイントの46.4。

消費者物価指数(総合指数・2011年8月まで)

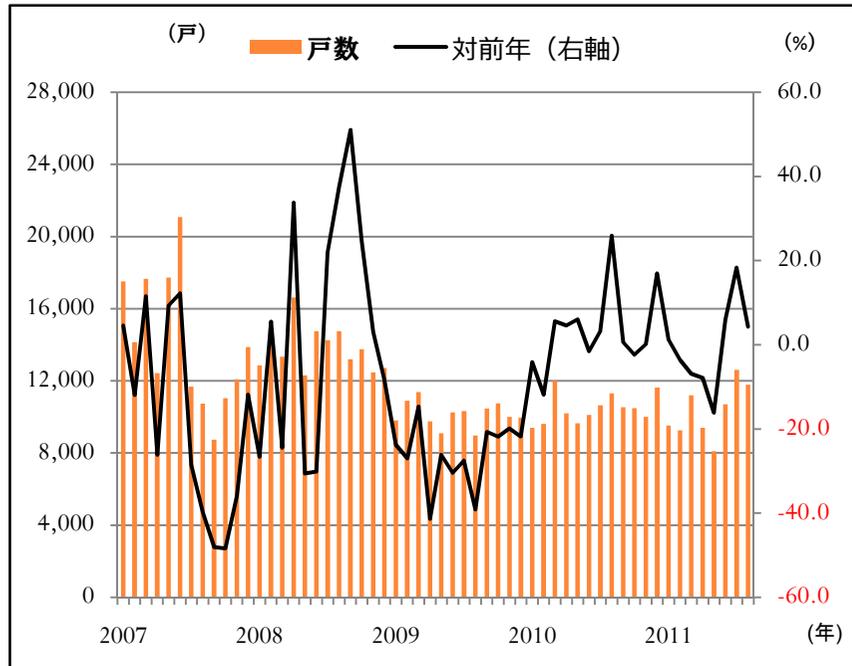


(出所) 総務省

- ・ 近畿の8月の消費者物価指数(総合指数、2005年基準)は99.7。前月比+0.3%、前年同月比+0.5%の上昇。
- ・ エネルギー(電気、都市ガス、ガソリン、灯油等)の指数が前年同月比+0.8%と、6月の前月比で一旦低下したものの、2カ月連続で上昇。前年同月比では+5.5%、15カ月連続の上昇。
- ・ 近畿の食料(酒を除く)及びエネルギーを除く総合指数は97.4で、前月比+0.1%、前年同月比+0.3%。前年同月比では5カ月連続の上昇。
- ・ 全国の7月の消費者物価指数(総合指数、2005年基準)は100.0。前月比+0.1%、前年同月比+0.8%。

～住宅投資～

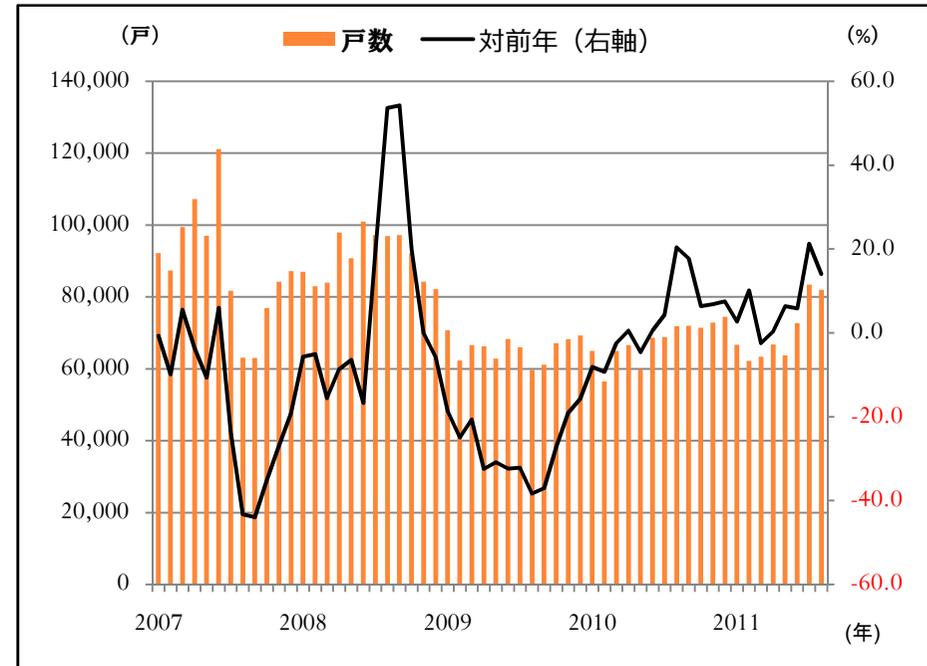
新規住宅着工戸数（近畿・2011年8月まで）



(出所) 国土交通省

- ・ 8月の近畿の新設住宅着工件数は11,791戸、前年同月比+4.3%。3カ月連続のプラス。
- ・ 利用関係別の対前年同月比を見ると、持家が+8.0%と2カ月連続のプラス。貸家が+6.0%と3カ月連続のプラス。分譲は+0.3%と3カ月連続のプラス。分譲のうち、マンションが▲11.1%と3カ月ぶりのマイナス。一戸建て住宅は+10.0%と3カ月連続のプラス。住宅エコポイント制度の効果が表れている。

新規住宅着工戸数（全国・2011年8月まで）

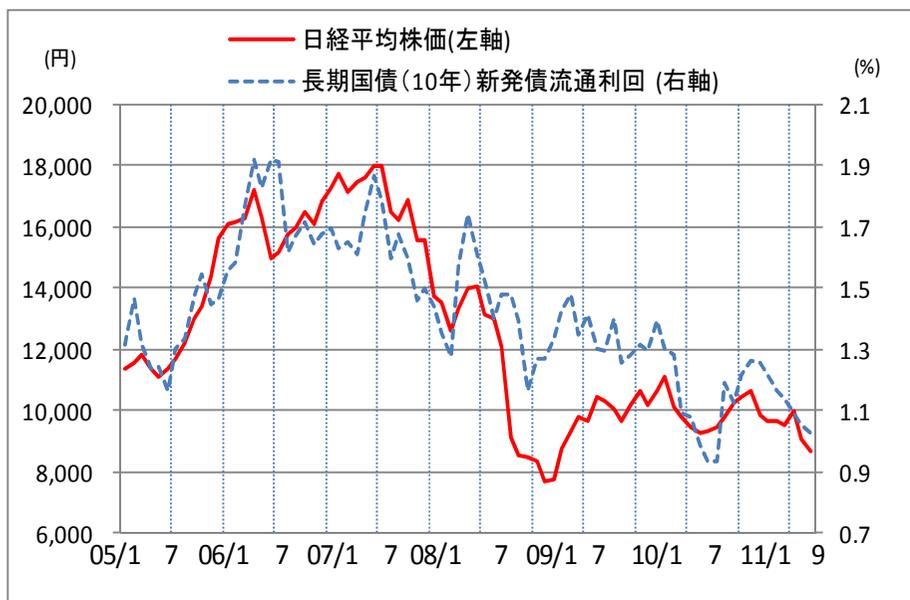


(出所) 国土交通省

- ・ 8月の全国の新設住宅着工件数は81,986戸、前年同月比+14.0%と5カ月連続のプラス。
- ・ 利用関係別に見ると、持家+6.9%、貸家+9.8%、分譲+31.2%。分譲のうち、マンションが+61.6%、一戸建て住宅が+10.8%。持家が2カ月連続のプラス、マンションが5カ月連続のプラス。一戸建てが3カ月ぶりのプラス。貸家は3カ月連続のプラス。

～株式・長期金利～

日経平均株価（期中平均）・長期国債新発債流通利回（月末）

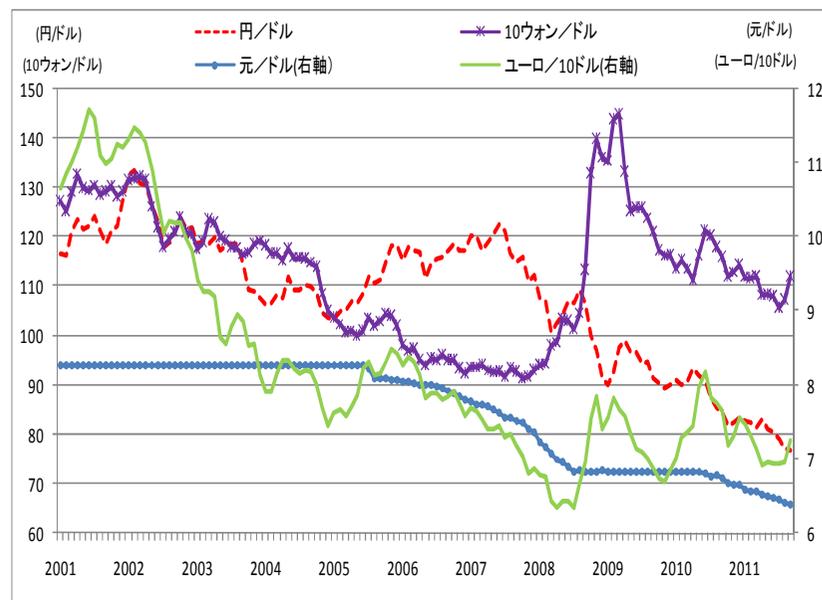


(出所) 日本経済新聞社

- ・9月の日経平均株価(期中平均)は、前月比377円52銭安の8695.42円。欧州の信用不安や米国経済の悪化から世界的な株安となり、9月26日には、日経平均は8,300円台まで下落し、年初来最安値をつけた。
10月18日現在、8,700円前後で推移している。
- ・先行きも、超円高、電力不足、タイの水害、米国経済の減速懸念と世界的な株安、ユーロ圏の財政懸念拡大等、引き続き不安材料が多い。
- ・9月末の長期国債(10年)新発債流通利回りは、年率1.032%、8月末から0.024%低下。
- ・欧米等海外経済の減速懸念から日本国債が買われ、足下の利回りは低水準にあるが、日本も財政悪化懸念が強く、さらに東日本大震災の復興経費等の捻出のため国債増発が予定されており中長期的に長期金利上昇のリスクは高い。

～為替相場～

為替相場の動き（期中平均値・2011年9月まで）



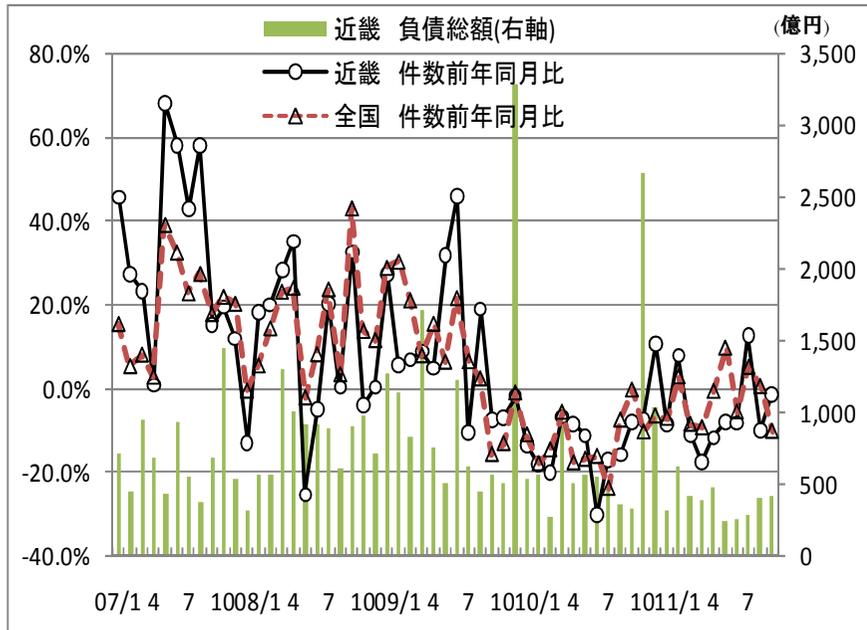
(出所) FRB

通貨	8月 (期中平均)	9月 (期中平均)	前月比
円/ドル	77.00	76.80	0.20 円の円高
ユーロ/ドル	0.70	0.73	0.03 ユーロのユーロ安
元/ドル	6.41	6.39	0.02 元の元高
ウォン/ドル	1074.50	1121.91	47.41 ウォンのウォン安

- ・9月末より欧州の信用不安が高まり、特に10月3日にはギリシャのデフォルト懸念から対ユーロで一時100円台をつけ、10年4か月ぶりの高値となった。引き続きリスク回避から円が買われ、対ドルでも76円台の円高水準が続いている。
- ・今後も、ギリシャ問題を中心に欧州の信用不安が連鎖的に続くことや、米国で低金利政策が継続されることが予想され、円高傾向が続く可能性が高い。日本企業の更なる利益圧迫が懸念される。

～倒産～

倒産件数前年同月比・負債総額の推移 (2011年9月まで)



(出所) 帝国データバンク

- ・ 2011年9月の近畿の倒産件数は228件。前年同月比▲1.7%と、2カ月連続で前年同月を下回った。
- ・ 近畿の負債総額は406億8,400万円、前年同月比+24.4%と2カ月連続のプラス。大型倒産の比率が4カ月ぶりに増加。
- ・ 全国の倒産件数は847件、前年同月比▲10.2%。全国の負債総額は1,929億3,400万円、前年同月比▲85.9%。
- ・ 東北の負債額は、復興需要や各種金融支援策により4カ月連続で前年同月を下回っている。

2011年8月の近畿の大型倒産

月	企業名	所在地	業種	負債総額(億円)
9月	京都東山観光(株)	京都	ゴルフ場経営	82
	堺電子工業(株)	大阪	プリント回路製造	55
	(株)HOTTA	京都	運送	33
	(株)ゼロム	大阪	金属プレス製品製造	26

円高関連の倒産件数 (近畿、2011年9月まで)

年/月	2009年	2010年	2011年
1月	0	0	0
2月	0	1	2
3月	3	1	0
4月	1	0	1
5月	2	0	0
6月	0	0	0
7月	0	1	0
8月	0	1	2
9月	1	1	1
10月	2	3	
11月	0	2	
12月	0	1	
近畿合計(*)	9	11	6
全国合計(*)	35	58	34

*・・・2011年度は9月までの合計

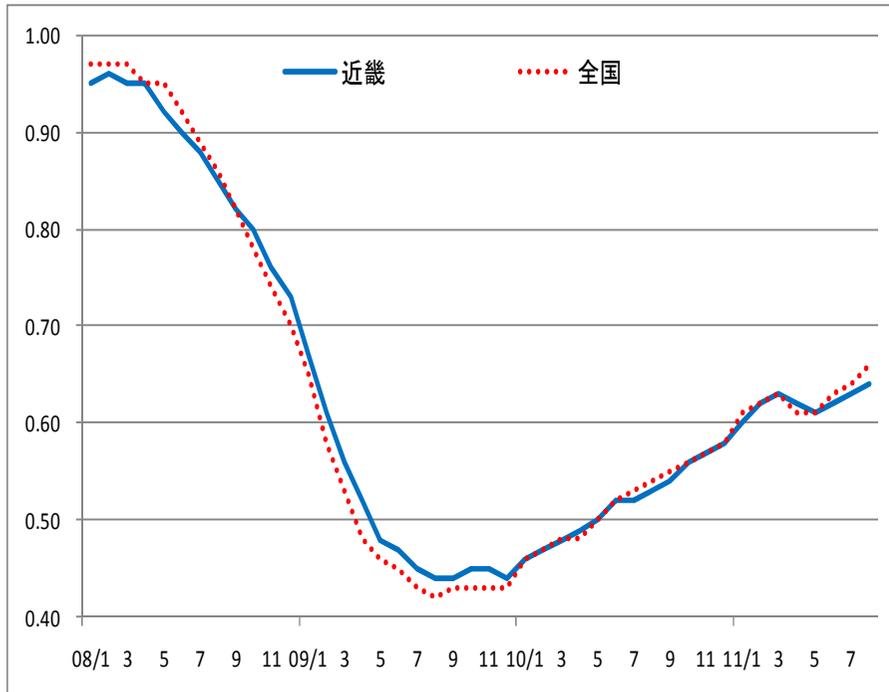
※集計対象：負債1000万円以上の法的整理

(出所) 帝国データバンク 「円高関連倒産」の動向調査

- ・ 2011期9月の円高関連倒産は、近畿で1件判明した。近畿の2011年9月までの合計は6件と、昨年を上回るペースで発生しており、先行きも増加が懸念される。
- ・ 全国の9月の円高関連倒産は10件と、今年最多。これまで多発していたデリバティブ損失に代わり、受注減少(6件)と輸出不振(2件)が目立つなど、影響が大きくなっている。

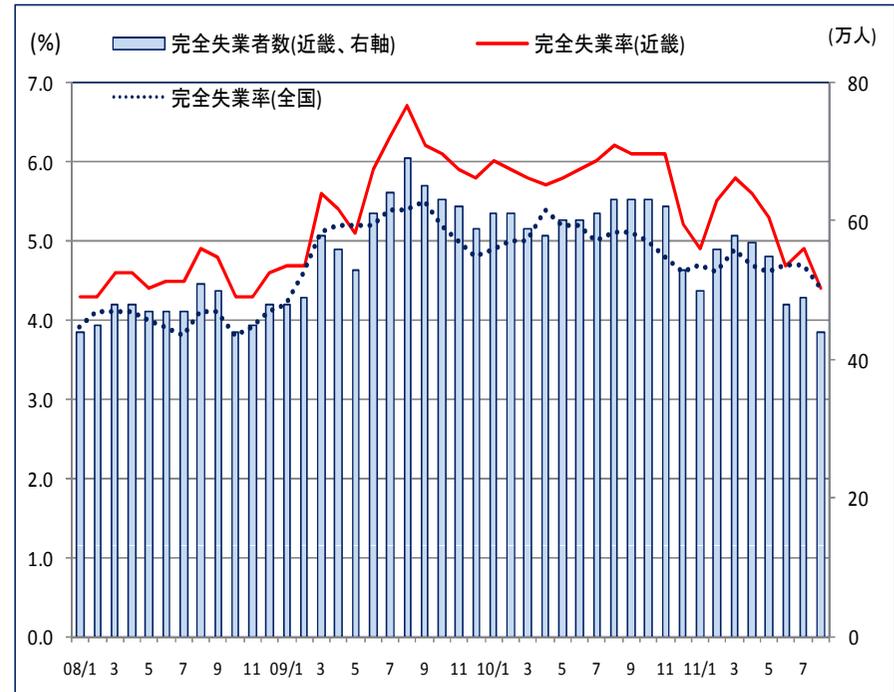
～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値・2011年8月まで）



(出所) 厚生労働省

完全失業率の推移（原数値・2011年8月まで）



(出所) 総務省

地域別有効求人倍率（2011年8月：下段は前月比）

全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
0.66	0.47	0.61	0.65	0.71	0.79	0.80	0.64	0.82	0.83	0.55
0.02	0.02	0.04	0.02	0.02	0.01	0.03	0.01	0.02	0.01	0.00

・2011年8月の近畿の有効求人倍率は0.64倍、前月比+0.01ポイント。4月以降悪化していたが、4カ月連続で改善。

・全国は0.66倍で、前月比+0.02ポイント、4カ月連続の改善。地域別の前月比では、九州で横ばい、その他の地域はすべて改善。

・8月の近畿の完全失業率（原数値）は4.4%。前月の4.9%から▲0.5ポイントと、2カ月ぶりに改善した。前年同月比では▲1.8ポイントの改善。

・8月の全国の完全失業率（原数値）は4.4%、前月から▲0.3ポイントの改善。

・8月の全国の完全失業率（季節調整値）は4.3%、前月比▲0.4ポイントの改善。

※調査実施が困難となったため、3月以降、全国の数値には岩手・宮城・福島が含まれていない。